

観自在

弘長寺寺報
第三十九号
令和元年八
月(年二回
発行)

『あの世はない』と思っ
ていませんか

弘長寺住職 森田裕光

本年三月、ホームページを
起ち上げました。

「弘長禅寺」で検索すれば
必ず出てまいります。

起ち上げ当初はブーイング
の嵐でした。ま
とまりがなく大変悪評で
ございました。

さすがにこれではいけない
と思い、最近
は簡潔にまとめ読み
やすく致しました。

面白いテーマを厳選して
掲載しておりますので、
どうかお立ち寄り下さいませ。

中でもお役立ち情報に載
せているイチオシが、

《★果たして『あの世』
はあるのか?》

〈あの世のことは勝五郎に
聞け〉です。

手前味噌ですが、これは
ダントツに面白い。

よく世間話では「あの世
なんてほんとは多分ない
よね、だって臨死体験を
する人はあっても、あの
世から帰って来た人な

んで一人もいないんだから。」
ふつうはこんな会話で終
わるのではないでしょう
か。

しかし残念ながら、確
かにあの世から帰って
来た人物がいるのです。

江戸時代、多摩郡中野
村、当時八歳の勝五郎
君が突然前世と、この
家に生まれ変わる迄の
消息について詳しく語
り始め、家族はびっく
り仰天。

たちまち噂が広まり、
あまりにも過去の事
実とピタッと一致する
ので、隣の程久保村
の前世の両親が不思議
に思っ
て会いたがり、面会
が実現、前世では藤
蔵とい
う名だ
った彼
を、前
世の
両親
が「六
歳で
亡く
なっ
た藤
蔵に
ソッ
クリ
だ」と
抱き
上げ、
涙に
暮れ
たの
です。

江戸中が大騒ぎとなり、
若桜藩の大名が聞き書き
にやっ
て来
たり、
当時
国内
随一
の国
学者
とし
て名
声
の高
かっ
た平
田篤
胤と
伴友
信が、
勝五
郎君
を自
宅に
呼ん
で聞
き書
きを
した
記録
書が
残っ
てい
ます。
(勝五
郎再
生記
聞)

あの世が確かに存在する
証明と、転生に至る体
験をした勝五郎君が、全
てを証言してくれました。

『あの世』は間違いなく
あるのです。



臨死体験を超えろ

「みんなの集う 菩提寺」

弘長寺護持会
会長 武田民三

弘長寺護持会の皆さまには、ご健勝にて恙なくご送日のことと拝します。

令和元年の梅雨は、近年まれなる異常気象でしたが、日本列島そのものが過活動現象ではないでしょうか。

「活力に満ちた天体」と言われる地球は、常に活動しているのです。

これから逃れようとするのはナンセンスな話でありましょう。

このことは、地球に生まれた人類が宿命と受け止めて、人類に与えられた英知で以て乗り越えて行くしかないのでしょうか。

地質学者の話として紹介するものですが、「日本列島誕生は、特に日本神話そのものと言っても過言ではない」と

しています。

大陸から分断された日本列島は、西日本（特に出雲地方）が最初から存在していて、東日本（関東・富士山等々）は後から、小さな島々（火山島）が、ぶつかり合って生まれたと言われているのです。

地球上（世界中）でも、この様な日本列島誕生の如き「部分」は他に例の無いものとされています。



国生み神話

さて、過去の寺報でも紹介させて頂いているところでありますが。

今や、世情は、退職金の一

部で企業を買い取ると言われる時代であり、サラリーマンや個人が会社を買って経営者となる。

それは、後継者の不在から、企業を売却する例が活発化しているからとも。

こんな世の中でも、祖先を奉る菩提寺は大切に守護して行かなければならない。

それは、若い世代の人々が一人でも多く、我が祖先を祀る菩提寺を「知る」ことに尽きると断言致します。

その方策の一つとして、方丈様のご理解とご尽力で「弘長寺ホームページ」を立ち上げて頂きました。

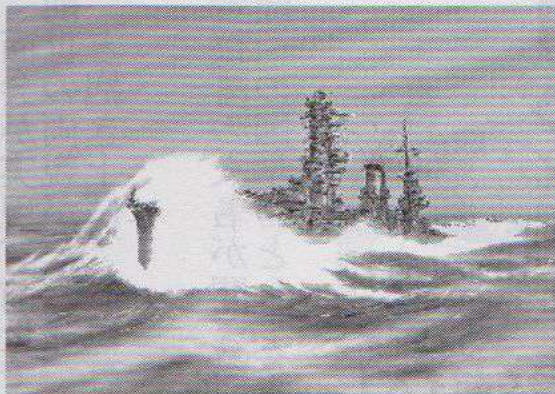
簡単なクリックで菩提寺である弘長寺の雄大で壮大な創立のドラマや、「知りたいこと」なんでも盛り沢山に編集されています。

若いも若きも、そして男子も女子も、どんどんと菩提寺のホームページを訪れて来て

頂きたい。

そして「知って頂きたい」のです。

「知らないことは危険なこと」であるとも言われます。



私が小学校二年生の時、夏休みを利用して弟と二人、呉港（当時は日本海軍の呉鎮守府）に停泊中の「戦艦扶桑」に乗艦する体験を致しました。

その話を級友に話して聞かせるけれども、軍艦を見たこともない人々は「ウソ」と言っ

て全く信じてくれない。

知らないとは「おそろしい」

彼等はそのチャンスが与えられていないから認めることができないのです。

お釈迦様は「知ること第一」とお説きになっていきますね。

皆さん！菩提寺の素晴らしい中味は、知ることからスタートしましょう。

だから先ずは、寺を訪れて、或いはホームページで検索し、我が菩提寺を理解して下さい。

必ずや皆さんは感嘆し、虜になってしまうこと疑いなしです。

そこからお寺を、誰もが集まる場とすることができるとです。

私は、それを待っています。

皆さんの自由な発想で、どんどん素晴らしいアイデアが必ず生まれると信じています。

音楽(メロディー)とか、神楽(旋律)には、生き物(人、草木、動物等々、生きとしいけるもの総て)が本能的に生命を揺り動かす「力」として

潜在させている。

これを生かさない手はないでしょう。

怒鳴ったり、いがみ合ったり、悲嘆に暮れたり。

これは、負の力であり、NGです。

お寺の本堂ではあっても、歌ったり、踊ったり、同好会を開いたり、どんな活用をしても宜しいと、方丈様はお許しであります。

是非、その様な楽しい菩提寺にして行きたいと念願致しています。

ありがとうございます

合掌

令和を生きる

弘長寺護持会副会長

内田 松寿

令和元年度の松農会総会が、7月6日 ホテル一畑で開か

れ出席した。

約400名余の会員等が集った。

アトラクションでは、在校生の素晴らしい吹奏楽演奏を眼の前で楽しんだ。

懇親会では数人から名刺をもらい活躍の様子を伺うことができ、教育に携わったものとして感動した。

令和がスタートして約3か月が経過した。

新元号「令和」の考案者とみられている中西進大阪女子大元学長は「典拠としては国書である万葉集がよいと考えた。

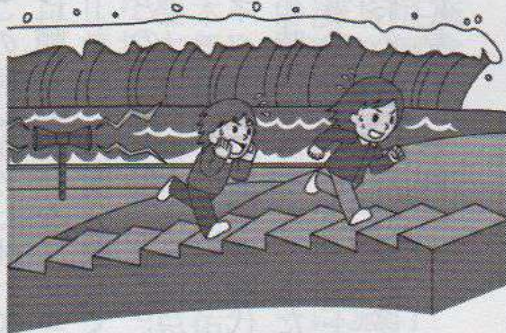
令は「麗しい」、和は「平和」と「大和」を表現していると説明している(文芸春秋6月号)。

「人々が美しく心を寄せ合う中で文化が生まれ育つ」と首相が説明した新年号に込められた理想を、いかにかなえるか。

日本政府(外務省)の公式

英訳は「Beautiful harmony」だった。(ビューティフルハーモニー：美しい調和)

昭和の後半三十年は、高度経済成長が続き(四十八年まで)、日本のGDPが米国について世界第二位になった(四十二年)。日本人の総人口が一億人を突破(四十五年)し、平均寿命が男女共に世界一になる(五十二年)などがあった。



平成は阪神・淡路大震災(七年)、東日本大震災(二十三年)など災害が国の土台を揺さぶった。

私たちは「戦後」と「災後」を生き延びることを決して忘れてはならない。

平成はどんな時代になるの
であろうか。今後三十年は、「高齢化」と「AI(人工知能)」の時代になりそうだとはいわれている。

少子高齢化がさらに進み、不足する労働力は「G」が担うなど暮らしや働き方が一変するかもしれない。

ともあれ、令和の時代も戦争をしない社会であり続けてほしいと強く願う。健康に気を付け、体を動かし、趣味を楽しみ、政治や経済にも関心を持ちながら、日々を大切に生きていきたい。

合 掌

平成のあんなこと、
こんなこと

弘長寺護持会副会長

内田磯弘

五月一日、三十年続いた

「平成」の時代が終わり、めでたく「令和」の幕が開きました。

テレビでは、平成とはどのような時代だったのか、三月と四月は検証番組が目白押しでした。

元号が変わるといふことは日本では一大イベント。時代を振り返るにはちょうどいい区切り時でしょう。

ネット社会なので「平成出来事」などで検索すると、あんなこと、こんなこと、一年ごとに細かく見ることができます。

しかしながらノーベル賞の受賞やオリンピックでメダル獲得など、吉事は古ければ古いほどほとんど忘れてしまい、逆に災害、事件、事故は脳裏に強く残っているものがあります。

特に衝撃だったものほど、自分がそのとき何をしていた

か覚えていられるものです。

平成七年に起きた地下鉄サリン事件のニュースの第一報は佐田町に向かうトラックの中で聞きましたし、平成二十三年のあの東日本大震災発生時の地震速報は出雲市内のホームセンターに向かう車内でNHK-FMを聞いていた時でした。



当地においてはとてつもなく驚くような災害、事故はなかったように思いますが、それでも平成三年の台風十九号や(この時は我が家も車庫の屋根が飛んだ)平成二十二年

大晦日から翌年元日にかけての大雪で、倒木によるものでしょうか停電が長時間続いたこともありました。

(この時ばかりはすべてを電気に頼るのではなく、エネルギーをある程度分散しておくことの重要性を感じました。)

ネット上でも平成時代は災害の時代であった、または大災害の始まりといった不安をおおる悲観的な表現が多いように見受けられます。

令和の時代です。

オリンピックが目の前です。万博も開かれます。

自動化が進み、人工知能ですべて解決、キャッシュレスが当たり前、このような時代になっていくのでしょうか。

楽しい時代、いつも笑っていられる時代になれば幸いです。

合 掌

いただきますと
ごちそうさまの
あいだ

あいだ

副住職 森田大裕

「典座教訓」(てんぞきょうくん)をご存知でしょうか。

食事を作る「典座」という役職の心構えなどを曹洞宗の開祖様である道元禅師がまとめられたものです。

一方で、その典座が作った料理を食べる僧侶たちへ作法や心構えを説かれたものに、「赴粥飯法」(ふしゆくはんぼう)があります。

食事を頂く以前の、僧堂への入場の仕方から座り方、箸の上げ下げに至るまで詳細に定められています。

その中で、「恭敬(くぎょう)して受く」ということばがあります。

慎みや敬いの心で受けなさいという意味合いです。

食べ物に対して敬いの気持

ちや感謝する気持ちを大切に
考えて食べなさいということ
です。

耳にタコが出来るほど聞いて
おられるでしょう。

「いただきます」と「ごち
うさま」ですね。



また「羹飯俱(こうはんども)も)に食し、次に次を以て食すべし」という言葉もありま

す。これは「汁もごはんもどち
らも食べ、ごはん、汁物、お
かずと、順序よく食べなさい」
という意味です。

日本における食事作法とし

て、ごはんとおかずは交互に
食べるべきだというものがあ
ります。

自分の好きなものだけを最
初に平らげてしまったり、反
対に楽しみに最後まで残した
り、(私はよく最後に残して
しまいます)というのは俗に
「片付け食い」といってマナー
違反だとされています。

懐石料理など一品ずつ提供
される場合は別として、普段
の食事ではバランス良く「三
角食べ」を心掛けたいもので
す。

栄養学の観点からは、「三
角食べ」のメリットはさほど
では無いとのことですが、科
学的ではないにしろ、重要な
のは「考えながら頂く」とい
うことではないでしょうか。

食事の前の「いただきます」

も食後の「ごちそうさま」も、
食べている最中は美味しい、不
味い、テレビが新聞が、器を
持ったり置いたり面倒くさい、
それでは形だけなのではない

でしょうか。

食事の最中も、少しだけ
「考えながら」を試してみ
てはいかがでしょうか。

お知らせ

お願い

●盆棚経

昨年全檀家を廻ることが
できましたので、本年も弘
長寺地区から廻ります。
八月十三日から二十日迄。
十四日は初盆です。
葬儀が発生したら葬儀優先
です。

●施食会

恒例の当山最大の行事で
あります「山門大施食会
法要」を八月七日に行い
ます。

本年は先住十七世天佑大
聖大和尚様の十三回忌を執
りおこないます。
したがってアトラクション
はございません。

●門前のお不動さまの尊像が

傷みがひどく、新しくして
さしあげたいと思い、遠藤
石材店に依頼しました。
仏教の仏様ですが、特に真

言宗では大日如来様と並び、非常に大切にされる重要な仏様です。

弘長寺境内には四国八十八ヶ所の修行場がございます。弘法修行大師尊像も、数年前、主に弘長寺地区皆さまのご信心のお力で尊像を新しくしてさしあげたところでありましたが、申し訳なかつたのですが弘長寺地区の皆さまと、特にお不動信仰が深いと思われる他地区の特定のお方にだけご案内文を出させていただきました。

前願主名二名が顕彰されているのですが、ご事情もあり、その願主家だけでという訳にまいりませんので、法人と護持会様にもご協力を仰ぐことと致しました。

また業者は弘法様のご縁(境港遠藤家)から遠藤石材店に依頼しました。

開眼供養は八月四日十時から。

住職は考える

高齢ドライバー

免許証返納について

住職

池袋で、親子二人をはね十人に重軽傷を負わせた旧通産省工業技術院の元院長、飯塚幸三(八十七歳)に対し警察はいまだに逮捕していない。

遺族からは厳罰を求める声が上がっている、当然です。

国から褒章も受けている元上級官僚に対して何故逮捕しないのか、メディアも加害者にさん付けで発表するなど、遠慮がちで異常な対応に対し警察・メディアへの批判が高まっている。

褒章などさっさと取り上げてしまふべきです。

そして病院を退院したなら、殺人犯としてサッサと交通刑務所へ収監すべきでしょう。

両足の自由があまり効かぬ状態で、医者からも運転をやめるよう警告されていたにもかかわらず運転をしてしまったこの加害者は、まさしく故意の殺人犯であります。

4、500万円のマンションをキャッシュで購入できた程のお金持ちなのに、なぜその不自由な身体でタクシーを利用しなかつたのか。

それは、昨日までは何事も起きなかつたので今日も大丈夫だろう、との慢心があつたのでしよう。



この事件をきっかけに高齢者の免許証返納が増えています。

かく言う私も来月七十一歳でありますから、返納すべき自覚を持たねばならぬ範中に入っているような気がいたします。

でも、世間的には、七十一歳はまだ高齢者とは呼べないと国が決めたのだから、現在は七十五歳(後期高齢者)が本当のお年寄り・高齢者なのでしょう。

さてそれはさておき、仏教的にはこの問題をどのように処理すべきかをあきらかにしていきたいと思ひます。

例えば年齢で区切って、後期高齢者以上は全て免許証返納などという事態には絶対反対です。

若くても危なっかしい運転者もいますし、九十歳を超えても何の心配もない方もいらつしやいます。

私が二十代の頃、友達の女性に乗せて頂く機会があり、助手席に乗せていただいたのですが、当時はシフトレバーの全盛時代でシフトレバーをローに入れた

ご旅行日程表

平成31年4月24日

弘長寺様

株式会社ビーエス観光 米子営業所

(観光庁長官登録旅行業第347号・日本旅行業協会会員)
〒683-0812 米子市角盛町2丁目3 共進ビル2階
TEL0859(33)6456 FAX0859(22)1796
担当者:車谷泰嗣

真言宗総本山高野山参拝と和宗総本山四天王寺参拝の旅 《1泊2日》

期	期日	行程
1	令和元年 11月6日 (水)	宍道町==宍道IC==<山陰/米子/中国道>== 8:00~8:20頃発 (区=加西SAレストラン/11:40~12:30頃) 《日本仏法最初の官寺》 ==<阪神高速>==和宗総本山四天王寺参拝== 14:20~15:30頃【中心御監】 ==<阪神/阪和道>==加太温泉(泊:ホテル海月予定) 17:00頃
2	11月7日 (木)	加太温泉==<阪和/京奈和道>==高野山参拝【世界遺産】== 8:00頃発 9:50~11:50頃【総本山金剛峯寺/奥の院等】 ==高野山内(昼食)==<阪和/近畿/中国/米子/山陰道>== 11:50~12:50頃 ==松江玉造IC==宍道町 19:30頃発

◎宿泊場所：加太温泉【加太海月】《和室定員利用》予定

◎食事場所：加西SA(レストラン)・中本名玉堂(和定食) 予定

※概算費用：お一人様 37,500円(大型バス35名計算)

【各参拝見学料・行程内食事代・乗務員諸費用(運転手1名・ガイド1名)・添乗員費用含んでおります】
消費税率10%にて算出しております。平成31年4月24日現在の運賃料金を基本としております。